令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立中島小学校 ）　　学校番号　０３９

【様式】

目指す学校像	知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校

重点目標	１　個に応じた指導の充実と学習習慣の定着 ２　安全安心な学校づくり ３　子ども・家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進 ４　教職員の授業力・指導力向上

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年２月６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状と課題〉 ○令和５年度の学校評価の保護者アンケートでは、タブレットなどの学習活用の項目で肯定評価の割合が７６％、家庭学習の項目で肯定評価の割合が７５％だった。 ○ＩＣＴを効果的に活用した学習指導や全ての児童にわかりやすい指導・支援の方法をさらに工夫する必要がある。 ○基本的生活習慣の定着とともに、学習習慣の定着を図るため、家庭学習の取り組み方等について、家庭と連携して、基本的なことをしっかりと身に付けさせていきたい。 ○毎朝、正門で児童の様子を把握するとともに、出欠席の状況等を把握し、児童の悩みや相談に対して組織で迅速に対応していきたい。	・個に応じた指導の充実と学習習慣の定着	・タブレットなどのＩＣＴを効果的に活用した授業を展開し、分かりやすい授業、個に応じた指導に取り組む。 ・「Sola るーむ」や「Growth」も活用しながら多様な学びを実現する。 ・「家庭学習の手引き」を周知・活用し、家庭と学校で連携・協力して家庭学習の方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。	・学校評価の保護者アンケート「お子さんは、学校でタブレットなどを使って学習することが十分にできていると感じる」で、８０％以上の肯定評価を得られたか。 ・学校評価の保護者アンケート「お子さんは、家庭で、進んで学習している」で、７８％以上の肯定評価を得られたか。	・「お子さんは、学校でタブレットなどを使って学習することが十分にできていると感じる」（目標 80%→85%）。 ・「お子さんは、家庭で、進んで学習している」（目標 78%→86%）。 ・児童の主体的な学びとタブレットの活用に積極的に取り組んだ。 ・「Sola るーむ」に空調設備やパーテーションを導入し、学習環境の整備も進めた。 ・「家庭学習の手引き」を周知し、家庭との連携を図った。	A	・次年度は、１人１台端末を活用した授業づくりを各教科へと更に広げて、指導を充実させていきたい。 ・ＩＣＴスキルの向上や個人差に応じた指導にも取り組んでいく。 ・今後も、学習習慣の定着に向けて、懇談会等の場も活用し、家庭と学校の連携・協力を図っていく。 ・「Sola るーむ」の活用をはじめ、多様な学びができる学習環境を整備していく。	・学習指導では、視覚的な効果を工夫して全ての児童に分かりやすい授業の展開に努めている。 ・児童は、明るく和やかに学校生活を送っている。 ・基本的な生活習慣の確立や、ゲーム・ネット利用の制限などは、家庭との連携が必要である。 ・「心を潤す４つの言葉」や声の大きさについての指導にも力を入れたい。 ・コロナ禍の影響による子どもたちの経験不足等の状況も踏まえながら、全校朝会や対面での給食実施、外遊びの奨励、歯みがき指導等にも力を入れているのは、良い取組である。
		・生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実	・生徒指導委員会を開催して児童の情報を共有し、学校全体で支援を行う。 ・児童理解研修を行い、特別支援教育や教育相談の視点による指導・支援の方法について全教職員で研修を行う。 ・児童及び保護者の相談に対し、面談、ケース会議等を実施し、組織で迅速に対応する。	・積極的な生徒指導・教育相談・特別支援教育の推進により、児童が主体的に活動し、いきいきと学校生活を楽しむ様子が見られたか。 ・学校評価の児童アンケート「クラスでこまったことがあっても、かいけつできている」で、８８％以上の肯定的評価を得られたか。	・恵まれた校庭環境で元気に外遊びをする児童は増えている。 ・児童会や委員会活動を中心に、児童自らが生活をよりよくしていこうとする活動が広がった。 ・「クラスでこまったことがあっても、かいけつできている」（目標 88%→80%）。 ・「先生はこまったとき、そうだんにのってくれる」（R5:90%→R6:93%）。	B	・縄跳びチャレンジなどの取組とも関連付けながら体力向上を図りたい。 ・毎朝、全校児童一人ひとりの表情を見取り、おはようメーターの入力状況等も確認して児童の様子を把握し、心配な子への見守りや声掛けにつないでいく。 ・不登校等児童へのアウトリーチ等で全ての児童とのつながりを図る。	
2	〈現状と課題〉 ○危機の発生を未然に防止するとともに、危機発生時の対応を想定しておくことが重要である。 ○全児童数の約６％に食物アレルギーがあり、給食対応に十分配慮するとともに、一人ひとりの児童の健康状態や配慮事項を十分に把握しておく必要がある。 ○様々な危機に対しては、組織的な対応で児童の安全確保に努めていきたい。 ○施設・設備については、定期的に安全点検を行い、必要に応じて修繕等の対応を図っていきたい。	・危機管理対応	・衛生・安全管理、安全教育を徹底し、学校事故、交通事故を未然に防止するとともに、傷病者発生時、不審者侵入時、災害発生時等の対応訓練を全教職員で実施する。 ・食物アレルギーに係る対応やけがの防止については、複数のチェック体制で確実に行う。	・衛生・安全管理、安全教育等を徹底し、学校事故を削減し、児童が安全に学校生活を送ることができたか。 ・食物アレルギー対応については、保護者と面談を実施して確認し、教職員の組織的な連携のもと、食物アレルギーに係る事故等を防止できたか。	・医療等を要した怪我の発生件数（２学期末比較）（R5:39 件→R6:39 件）。 ・入院等を要する怪我や事故は発生していない。 ・危険を予測し、回避する力を育成する指導を継続した。 ・食物アレルギーに係る対応は毎日、管理職及び担当者でのダブルチェックを行った。	B	・校内のトラブルや事故等に対しては、初期対応を丁寧に行うとともに、ヒヤリハット事例を共有して事故の未然防止に努めていく。 ・暑さ指数や雨風等に留意しながら、安全に外遊びが行えるように、安全教育を進めていく。 ・児童主体のルールメイキング等の取組も推進していきたい。	・緑豊かな教育環境に恵まれた学校を維持できるように、倒木等の可能性のある樹木伐採は、計画的に実施できると良い。 ・交通安全指導や、学校における災害発生時等の対応訓練について、家庭や地域とも連携、情報共有できると良い。
		・施設・設備・予算執行	・校地内巡回により施設・設備の安全点検を定期的に行う。 ・危険個所を把握し、必要に応じて修繕を行う等、教育環境を整備する。 ・施設管理等の手数料と消耗品費の優先順位を決め、効率的に執行する。	・施設・設備の安全点検を毎日行い、危険個所の有無を確認し、修繕を行う等の対応ができたか。 ・施設・設備の不備による児童の事故を防止できたか。	・予算運用も含めて安全管理を重視した。 ・樹木の伐採等、持続可能な学校緑化や教育環境づくりを進めた。 ・施設・設備の不備による事故は発生していない。	A	・引き続き、危険箇所については迅速に対応していく。 ・プール老朽化への対応を始め、大規模な修繕を要する箇所については、計画的に市教委とも連携していく。	
3	〈現状と課題〉 ○令和５年度の学校評価の児童アンケートでは、地域の方々との交流の項目で肯定評価の割合が７２％、ＰＴＡや育成会行事への参加の項目で肯定評価の割合が７１％だった。 ○学校運営協議会において、目指す児童像の実現に向けて熟議を活発に行い、協働活動の実施につなげていきたい。 ○子ども・家庭・地域とともに歩む学校づくりを推進し、学校の教育活動について保護者や地域の理解が深まるようにしていくとともに、子どもの声を学校運営や行事に反映させていきたい。 ○関連する中学校区の小・中学校で連携・協力した取組やあいさつ運動を地域全体へ広げるような取組等についても検討していきたい。	・コミュニティ・スクールの実施	・学校運営協議会を中心に、学校・家庭・地域が連携・協力して、協働活動に取り組む。 ・交流給食や行事等を生かし、子どもと地域の方が交流する場を積極的に創出する。 ・地域の教育人材を活用した児童の学習活動や教職員研修会を実施する。	・学校運営協議会を年３回開催し、目指す児童像の実現に向けて熟議を行い、学校・家庭・地域での協働活動の実施につなげることができたか。 ・学校評価の児童アンケート「地域の人といっしょに活動するのは楽しい」で、７５％以上の肯定評価を得られたか。	・学校運営協議会では児童の発表や給食交流も取り入れ、児童の声を聞いてもらう機会を作った。 ・大人や地域を巻き込む協働活動として、あいさつ運動を地域へと広げる「あいさつ通り」の取組をスタートした。 ・「地域の人といっしょに活動するのは楽しい」（目標 75%→72%）。 ・地域の方に講師を依頼し、職員対象の「地域の理解を深める研修会」を開催した。	B	・中島小学校の児童を中心に、「あいさつ運動・あいさつ通り」を発展させて、中島地区、中島小学校に関わる人がお互いにあいさつを交わす取組を広げていきたい。 ・「あいさつ」については家庭でも話題にしてもらうように働きかける。 ・教職員や保護者が地域の歩みや文化等を知る機会、研修の場を作っていく。	・まだまだ校外では、子どもたちからのあいさつは、あまりできていない。 ・教職員や保護者があいさつのモデルを見せる必要がある。 ・登校班の班長など、影響力のある子どもが低学年の手本となるような振る舞いができるとよい。 ・資源回収の利益等で「あいさつ通り」等の横断幕を作り、活動を盛り上げることも検討したい。 ・学校・家庭・地域が連携、協力して、子どもが生き生きと活動できる環境を確保していきたい。
		・ＰＴＡや育成会等の地域との連携	・ＰＴＡや育成会の行事、地域の諸活動の予定や、学校の教育活動について、学校だよりやＨＰ、懇談会等で積極的に情報発信する。	・学校だよりやＨＰ等を通して、児童や保護者、地域への情報発信を定期的に行うことができたか。 ・学校評価の児童アンケート「ＰＴＡや育成会の行事に楽しく参加している」で、７５％以上の肯定評価を得られたか。	・学校を会場とする行事等は、学校だよりや懇談会等で積極的に広報した。 ・「PTA や育成会の行事に楽しく参加している」（目標 75%→72%）。 ・育成会主催の体験活動や PTA 主催の行事、自治会のお祭り等に多くの児童が参加し、児童は多様な体験をすることができた。	B	・地域のお祭り等に金管バンドをはじめ、多くの児童の参加を図る。 ・ＰＴＡや地域の行事に参加した児童の感想等を校内に広げていく。	
4	〈現状と課題〉 ○児童一人ひとりの学びの自律化とＩＣＴを効果的に活用した学びの実現が求められている。 ○情報端末の活用に関する教職員研修の充実と学習者主体の授業づくりに取り組む必要がある。 ○教職員自らが資質向上に向けて主体的に研修を受講するとともに、それぞれの教職員のよさが教育活動に生かされるように研修プラットフォーム等を活用した研修奨励を行っていきたい。	・教職員研修の充実	・会議や研修の機をとらえて、市の施策の重点や学校経営方針等を教職員に確実に伝達する。 ・全教員が課題意識をもって公開授業及び相互の授業参観を行い、授業改善に取り組む。 ・教員自らの資質向上に向けて、１人１つ以上の研修を主体的に受講する。	・教職員アンケート「市の施策や学校経営方針を理解して、教育活動を進めている」で、８０％以上の肯定的評価を得られたか。 ・全教員が学びの自律化や情報端末の活用をテーマに公開授業を行うとともに、相互に実践事例を共有する研修を実施することができたか。	・「市の施策や学校経営方針を理解して、教育活動を進めている」の肯定的評価は１００％達成。 ・全教職員が授業を公開して、授業力の向上に努めた。 ・職員は自主的に研修に励み、チームワークよく教育活動を実践している。	A	・伝統を踏まえながらも、前例にとらわれない活気ある職場環境を目指して、年次や職種を越えて職員間で柔軟に学び合う風土を醸成していく。 ・20 代の職員が半数以上、子育て世代も多い職員構成の中、情報伝達を徹底するとともに、同僚や上司の支援が大きい組織としてサポートし合っていく。	・ＩＣＴの利用は、教職員の負荷を軽減する試みにもつながると良い。 ・教職員が教材の準備をしたり、子どもたちと落ち着いて向き合ったりできるように、空き時間や職員数を増やせると良い。